シリーズ戦争　子どもたちが綴った戦争体験

第1巻　勝って来るぞといさましく —日中戦争開戦—

もくじ

この本を読んでいただくみなさんへ …… 3

おじいちゃんの気持ちがわからない　戦争に行ったおじいちゃん

1　「バンザイ！ バンザイ!」で出征を送る子どもたち …… 6

日中戦争開戦

出征式　日の丸／まさたろうちゃん

お父さんやお兄さんとの別れ　兄さんの出征／兵隊さんみおくり

気持ちをかくして　お父さんの出征／千人針

●読んでみよう　「軍人勅諭」

2　戦争に夢中になる子どもたち —中国との戦争、上海・南京陥落— …… 20

ニュースで伝えられる戦争に　うらやましい出征軍人／飛行機（映画）／活動写真

天皇のために　事変について私が決心したこと

●読んでみよう・大日本帝国憲法と教育勅語

上海・南京陥落　砲煙けむる上海から／南京陥落の朝／南京攻落

●コラム　南京事件の悲劇

3　出征兵士への手紙 …… 36

こめた命への想い　兵隊さんつらかろうね／となりのおじさん

教室を戦場と思え　兵隊さんへ／れい子ちゃんのお父さん

シナヘイヲ キリコロシテ 来マス　ヘイタイサンヘ／（無題）

4　満蒙開拓青少年義勇軍と子どもたち …… 48

満州に夢もって　出　発

満州へ行きたい？　行け満州へ／僕はどうして生きて行くか——満蒙開拓青少年義勇軍

●読んでみよう・露営の歌

●満蒙開拓義勇軍に志願した都道府県別内原訓練所入所状況

満州での生活は　太陽の如く

ある教師たちの反省　オレたちは　決して忘れない

おわりに・戦争とはなにか —日本人が朝鮮で行ったこと— …… 60

父が残した非情の写真

表紙写真　右　旗を持ち、戦争ごっこする子ども。（『歴史写真』1932年3月号）
左　慰問袋3000こで「皇軍へ」と文字を書いた女子学生たち。（『歴史写真』1937年9月号）

裏表紙写真　満州移民を呼びかけるパンフレット『満洲開拓地案内』の表紙と裏表紙に描かれた絵。（琉球大学附属図書館所蔵）

この本を読んでいただくみなさんへ

■おじいちゃんの気持ちがわからない

みなさんは、むかし、日本が戦争を行っていたということを聞いたことがあるでしょう。そして戦争に負けたということも。学校では社会科や国語などで戦争についてどのようなことを学びましたか。そこで聞いたことや学んだことは、広島や長崎に原爆がおとされたこと、各地で大空襲があって街が焼かれたこと、沖縄の悲劇などのことが多かったのではないでしょうか。あなたたちが住んでいる街や地域での戦争のことも聞いたことがあるでしょう。

また、おじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さんから、家族や親戚のお父さんやお兄さんが戦争にいって亡くなったことを聞いたことのある人もいるでしょう。その時、みなさんはどんなことを考えましたか。

みなさんと同じように戦後生まれの樋口武伸さんは、おじいさんの戦争体験を聞いて、次のような詩を書いています。

戦争に行ったおじいちゃん

長野県小学六年　　樋口　武伸

おじいちゃんが
目に涙をため
手にちり紙を持って
身をのりだすように
テレビを観ていた。
中年の男の人が
涙を流しながら
何かしゃべっている。
中国残留こ児 (*) のテレビだった。

おじいちゃんは
重機関銃隊 (*) で

2 戦争に夢中になる子どもたち
—中国との戦争、上海・南京陥落—

ニュースで伝えられる戦争に

戦争中、日本では新聞やラジオが普及していました。大きな街では映画館も増えていきました。日本軍の戦闘については、新聞やラジオ、映画館でながれるニュースなどで毎日のように伝えられました。

うらやましい出征軍人

山形市立第八小学校　五年　古澤　正男

学校へくる道すがら
かどばたで
ばんざいばんざいと言う声
出征軍人だ
手には日の丸の旗が
にぎられている
占りょうした時
ばんざいばんざいと
この手と日の丸の旗を
ひるがえすのであろう
僕もなんだか軍人さんが
うらやましくなった

子どもが描いた文集の表紙絵。日の丸を振る子どもたち。

（山形市第八小学校　尋五『生活の本』1937年）

作者は、出征軍人を送るなかで、「軍人さんがうらやましくなった」と書いています。この時期、男の子たちは「大きくなったらなにになりたい」と聞かれたら、「軍人さん」とこたえる子どもが多くなっていきました。

大阪の浜寺双葉幼稚園で戦争ごっこで遊ぶ子どもたち。1932年3月。

（『写真・絵画集成　日本の子どもたち2　15年戦争のなかで』）

読んでみよう

大日本帝国憲法と教育勅語

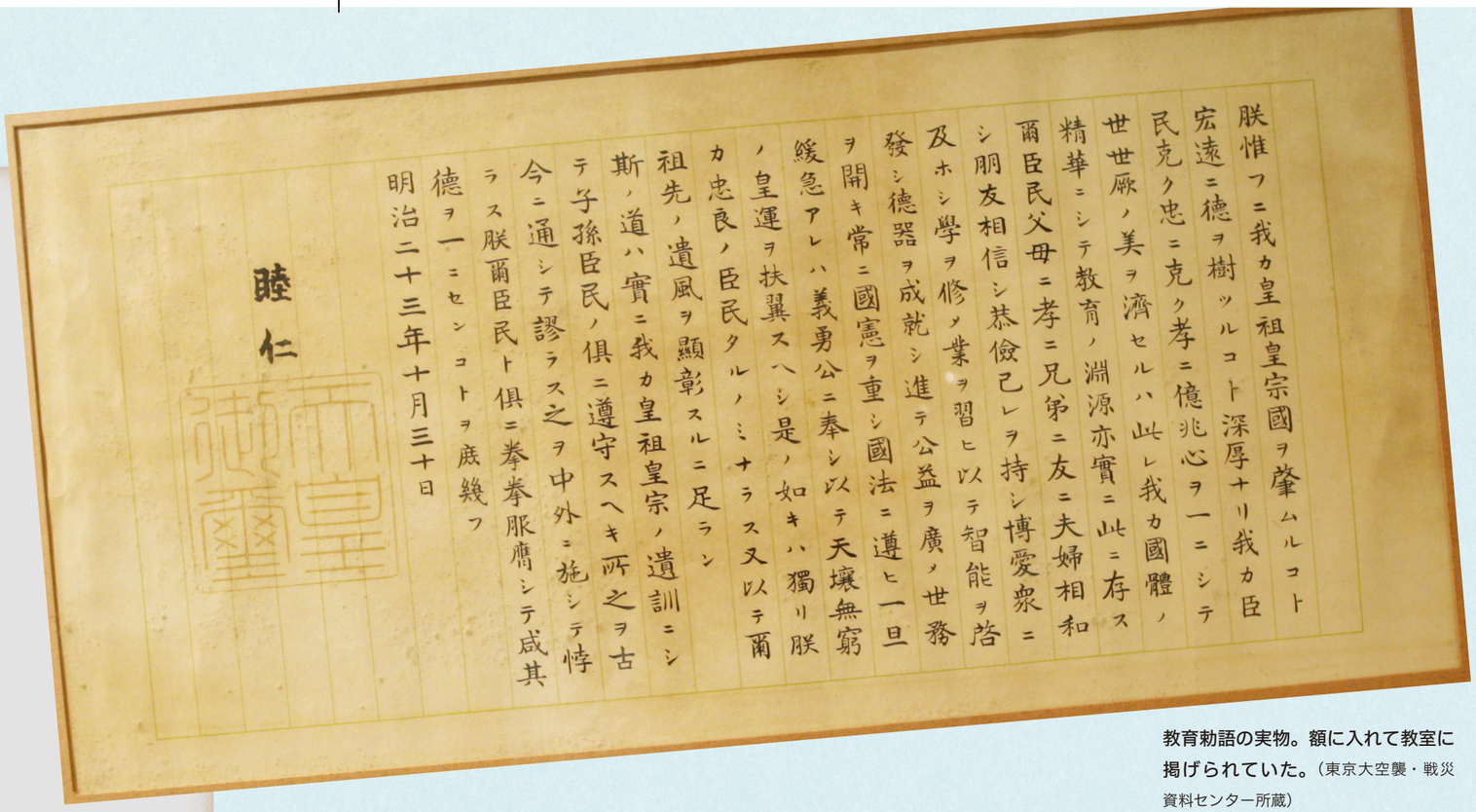
「大日本帝国憲法」（1889〈明治22〉年）では、第一条で、「大日本帝国は、永遠に一つの系統を継承していく天皇が統治する（現代語訳）」とあり、第三条では「天皇は神聖だから非難したりしてはならない」と定めていました。そして、「天皇は日本の元首で日本を治める権利を持ち」（第四条）と定めていたのです。つまり、日本は国の主権を、天皇が持っていたのです。

大日本帝国憲法発布の翌年につくられた「教育勅語」（1890〈明治23〉年）は、子どもたちの道徳の在り方を示したもので、学校では全員が暗記させられました。その「教育勅語」には、次のような文があります。小説家高橋源一郎さんの現代語訳で紹介します。

「ぼく（天皇陛下）が制定した憲法を大切にして、法律をやぶるようなことは絶対しちゃいけません。よろしいですか。さて、その上で、いったん何かが起こったら、いや、はっきりいうと、戦争が起こったりしたら、勇気を持ち、公のために奉仕してください。
というか、永遠に続くぼくたち天皇家を護るために戦争に行ってください。それが正義であり『人としての正しい道』なんです。そのことは、きみたちが、ただ単にぼくの忠実な臣下であることを証明するだけでなく、きみたちの祖先が同じように忠誠を誓っていたことを讃えることにもなるんです」

（高橋氏のツイッターから）

つまり、「天皇陛下のために命を捧げる」、そのためには戦場にも進んでいくことが日本人としての「正しい道」なのだと教えられていたのです。


朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト
宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣
民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ
世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ
精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス
爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和
シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ
及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓
發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務
ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦
緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮
ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕
カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾
祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシ
テ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所之ヲ古
今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖
ラス朕爾臣民ト倶ニ拳拳服膺シテ咸其
德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ
明治二十三年十月三十日
睦仁

教育勅語の実物。額に入れて教室に掲げられていた。（東京大空襲・戦災資料センター所蔵）

海軍の演習を視察する昭和天皇。（『歴史写真』19933年10月号）

日本軍は、上海を陥落させた後、さらに、南京にむけて進軍していきました。そして、37年12月、南京を陥落させました。

南京陥落の朝

山形市第八小学校　尋六　　安藤　清吾

「オーン、オーン」。落ちついた、しかも喜びに満ちたサイレンの音が朝の空気をゆるがせて響き渡った。 あゝ、待ちに待っていた南京が落ちたのだ。僕は思わず心の中で万歳を叫んだ。いそいそと道具を揃えて学校に向う。町には軒並に国旗がひるがえっている。それが朝風の中にいかにも勇ましく感じられ、僕の足まで自然とはずんで来る。旗行列は何時だろう等と思いながら、学校の屋上を見上げると、ここにもいつの間にか日の丸がなびいていて、空は真青に晴れている。日の丸の色、空の色、つくづくいいなあと思った。気がついて見るととびが頭の上で輪を描いている。旗を持った子供が僕の前をひっきりなしに走って行く。このがんぜない(*)下級生や、五つ六つの幼い子供達も、わからぬながらも嬉しいのだろう。いくら、小さくても日本の子供だ。さっきのとびは、どこへ行ったのだろう。あゝ、見えた見えた。悠々と山形の上をとんでいる。それにつけても、本当の戦争はこれからだぞ。そう思うと僕の胸は自然に引き締って来た。

（山形市第八小学校『みつばち〈高学年〉』1938年、4号）

＊がんぜない：幼くてまだ是非・善悪をわきまえない。

南京攻落

南村山郡本澤小学校　尋六　　本澤　盛亮

我が国は今、非常時であります。悪い支那の軍隊をすっかりうちころして東洋の平和をつくろうと努力しているのです。昔は刀弓等で戦争をしたのですが、今は昔とちがって科学戦で、大砲機関銃等あらゆる文明の利器をつかって、戦争をするのであります。支那兵も蒋介石(*)の指揮に従って、他からとり入れた大砲や飛行機を使って、日本軍にてむかっています。

しかし支那軍は北支でも中支でも口では強いことを言っていますが我が軍

南京占領を祝う東京・銀座のようす。「祝南京陥落」の旗がかかり、アドバルーンも上がっている。
（『画報躍進之日本』1938年2月号表紙）